

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	第20期第8回東村山市立公民館運営審議会			
開催日時	令和2年2月17日 午後6:00～午後7:50			
開催場所	中央公民館 第3集会室			
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 村上会長、佐藤副会長、岩松委員、渡邊委員、角町委員、 森山委員、永吉委員、杉山委員、小山委員  (市事務局) 田中教育部部長、平島教育部次長、服部館長、鈴木館長 補佐、半井萩山地区館長、當間秋津地区館長、町田富士見地区館長、 小山廻田地区館長、川嶋事業係長、松山主任  ●欠席者： 栗原委員			
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由	傍聴者数	1
会議次第	1. あいさつ 2. 審議事項 (1) 令和2年度市民講座について (2) 令和2年度自主公演単発講座について 3. 報告事項 (1) 令和元年度【12月～1月】 公民館 主催事業及び講座報告 (2) 第56回東京都公民館研究大会 (3) インフルエンザ等感染症に対する対策 (4) その他 4. その他 (1) 次回日程について			
問い合わせ先	教育部公民館 担当者名 松山 電話番号 042-395-7511 ファクス番号 042-395-7515			
会 議 経 過				
1. あいさつ  ・開会に際して教育部次長および公民館長よりあいさつ。 2. 審議事項				

## (1) 令和2年度市民講座について

### 【事業係長】

前回の公民館運営審議会で令和2年度市民講座学習テーマを34個の中から投票していただきました。投票の結果が出ましたのでお伝えいたします。資料1をご覧ください。得票率の高かったものに二重丸がついています。これをまとめたものが資料2です。

上から、「住むまちを知る」。平成29、30年度、令和元年度と続いて行っている講座です。「世界で起きている今を学ぶ!」。非常に人気のある講座です。「数学を楽しむ」。これは継続して行っている講座です。「農活『東村山の食文化』」。これは初めてテーマにあがったものです。「『記紀神話』の最大の謎 月読尊は今何処に」。こちらも初めてのテーマです。「東村山名物“黒焼きそば”&パンを作ろう」。こちらも初めてのテーマです。これは黒焼きそばと、パンの講座が一緒に行えると思いまとめております。「防災対策を学ぶ」。昨年災害が多かったので市民から多くあがってきたテーマです。「子どもをとりまく環境を知る」。子ども関係の講座をひらいたほうがよいという市民講座ボランティアの会議で声が多くあがったものです。「介護する人 される人」。超高齢化社会を反映しているものと思われませんが、誰がその立場になるかわかりませんので、このような講座をしたいという声があがりました。「【シニア学級】目指せ!幸齢者(人生100年時代をどう健康に過ごすか)」。これは毎年度開催しているものです。人生100年時代をどう健康に過ごすか、の部分は独立した市民講座でしたが、テーマが似ているということでシニア学級の中に統合しております。委員の先生方には以上のテーマにつきましてご審議いただきたいと思っております。

### 【会長】

資料1には全体から選ばれたものに二重丸がつけられ、資料2について今説明がありました。これについてなにかご質問等ありましたらお願いします。

### 【委員】

「防災対策を学ぶ」についてです。私は自治会のほうで避難所運営連絡協議会というものをしています。避難所運営は地震のときという前提で取り組んでいます。最近水害についての質問が委員から出ます。両者は性質が異なります。地震のときは家に住めない人がやってきます。化成小学校なのですが、雨の時は川沿いの世帯が全世帯いっぺんに来ます。どちらを想定するかでイメージが変わると思います。どちらにするか決めてから取り掛かるとよいと思います。

### 【事業係長】

「防災対策を学ぶ」については消防署と防災安全課にも講師として来ていただくようにしたいと考えています。防災士の方に来ていただきたいと考えていますが、その方は全般に地震や水害、避難所全部をお話し出来る先生ですので、逆にそれぞれ計3回やっていただいてもよいのかなと思っております。地震の回、水害の回、避難所の回というふうに考えております。

### 【会長】

地震、水害、避難所の回というように募集の際にも伝えるのですよね?

### 【事業係長】

はい。

**【会長】**

参加者は同一ですか？

**【事業係長】**

はい。

**【会長】**

ほかにありますか？

**【委員】**

「東村山名物“黒焼きそば” & パンを作ろう」は黒焼きそばとパンを1回で行うものですか？

**【事業係長】**

テーマとしてセットにし、今週は黒焼きそば、今週はパンというふうに考えています。なるべく多くの方に来ていただくためそのコースを2回設けることも考えています。親子を対象にしたいと考えています。

**【委員】**

「農活『東村山の食文化』」、「東村山名物“黒焼きそば” & パンを作ろう」は作る以外にもその背景を学ぶ場はありますか？まちのことを知ろうという一環ですか？作るプラスなにかがあるとよいと思います。

もう1点。「防災対策を学ぶ」ですが、東村山市は水害の時と地震の時、避難所は異なりますか？

**【公民館長】**

避難所は風水害の場合市内の学校のおよそ半数が対応します。大地震の場合すべての学校が避難所になります。

**【教育部長】**

公民館や他の館を昨年の台風19号の時に避難所開設をしました。自主避難所として開設していました。正式な避難所を開設したときにそちらに移らなくてはならないかなど、市民の方からいろいろなご意見をいただいた中で、避難所の統一をしたほうがよいということで、公民館やふるさと歴史館、スポーツセンターなどは避難所として開設をしないで小中学校22校、風水害の際はその半分、川沿いやエリアを分散させたかたちで設定をすることになりました。

**【委員】**

ほかの市に伺いましたところ、小中学校の避難所で、体育館に夏場クーラーがない。そこで公民館で引き受けてほしいといった事例がありました。実際には考えたようにはうまくいかないことが災害時には起きます。講座とは関係ないかもしれませんがそういうことも考えたほうがよいと感じました。

「防災対策を学ぶ」といいますと個々の自助というところに主眼が置かれているのかもしれませんが、共助の部分も書いてくださっているので入ってくるのかとは思

ますが、系統的に、今年はこれをやって、来年はこれをやってというふうに積み上げが出来るとよいかと思えます。

せっかくやるのでしたら、地震と大雨というように分けるのも一つの手立てだと思います。全般に私たちがどのような課題を有していて、どのような課題を克服していかなければいけないかという視点をうまく取り入れられるような講師選定ができればよいと思っていました。

**【委員】**

「子どもをとりまく環境を知る」は何回シリーズですか？

**【事業係長】**

市民講座は基本4回です。講師の方の都合で変わることもあります。

**【委員】**

その場合、対象の方はずっと同じですか？

**【事業係長】**

はい。

**【会長】**

今の防災のことですが、たとえば水害にしても公民館に集まるだけということでしょうか。そこに何日か長期間滞在しないといけないということもあるかと思えます。そういったことを想定したシミュレーションはあるのですか？

**【事業係長】**

昨日、講師依頼をしたいと考えている先生の講座のお話を拝聴したのですが、かえって避難所に行かないほうがいいのかも多々あるということ伺いました。避難所に行ったからといって、収容人数も限られていますし、災害弱者が避難所に行ったものの遠慮して自宅に戻るケースもあるそうです。いろいろな方がいらっしゃる。そもそもキャパシティとしては一つの体育館で500人くらいが限界です。ですなのでそのあたりのお話もしていただければと考えています。

**【会長】**

男女共同参画の話ではこれが必ず話題にあがります。それはいまだに女性が困ることです。たとえば衝立もなにもない。男女共同参画の委員の方はこれを一番問題にしています。女性の指導者、キャップが少ない。トイレの問題、乳幼児の問題、そういったことを想定し、どうにかしてほしいということが話題になっています。

**【事業係長】**

昨日お話をいただいた先生は女性視点から考えていただける先生でした。女性が自主防災組織であるとか自治会の組織に入っても炊事担当であったり受付などになりがちですが、そうではなくもっと女性はできる仕事があるというお話をいただきました。

**【委員】**

会長がおっしゃっていた女性目線というのは避難所で働けるという意味なのでしょうか。性被害やトイレの問題、避難用品にそもそも生理用品がないといった問題とい

うことでしょうか。

**【会長】**

はい、したがって女性の登用も必要なのです。お手伝いというわけではなく、たとえば防災委員会でキャップとなるような女性がいなくてはなりません。

**【委員】**

意思決定の場に女性が必要ということですね。

**【会長】**

はい、まさに意思決定です。

**【委員】**

化成小学校で3年やっています4回目の訓練をしますが、三分の一は4年目にもなると女性で引っ張っていく方が出てきています。やはり経験の中で民生委員さんや福祉協力員さんが先頭に立たれてきました。学ぶ中で、経験を積むことによって変われることで、そのきっかけが公民館にあればよいと思います。もし参加者が少なければ自主防災組織や自治会に声をかけると関心があると思います。みなさん専門家の話は聞く機会がないもので、そういった機会があるといいと思います。

**【事業係長】**

共助の部分で、町単位を繋ぐ役目は女性のほうがやはり向いているというお話が昨日ありました。

**【委員】**

「農活『東村山の食文化』」ですが、どこでいつやるかによって畑を見に行くタイミングが全然違います。最盛期に見学に行くと農家の邪魔になります。収穫が終わったあとに行ってもなにもありません。東村山の場合果樹を見るなら恩多とか、花を見るなら久米川とか、野菜を見るなら廻田や野口とか、場所が限定されます。もし地域を歩こうという前提ですといつどこでやるのか、どんなものを見てもらいたいかによって絞られてくると思います。

**【事業係長】**

これが決定されれば農協や産業振興課に相談に行き、適切な時期に開催して、歩くにしてもこのような場所に行こうという良い案を集めていきたいと思っています。

**【委員】**

「介護する人 される人」ですが、対象としてはどのような人を考えているのでしょうか。介護する人、される人、両方を対象として講座をするときにどちらの人も来られないような気がします。よくあるのが介護をしている方の共に語り合う会、支えあう会をするというのは聞くことがあります。介護をされている方はなんと言おうべきかと思いました。オレンジカフェなど認知症の方向けのカフェを公民館でやっている例はありますが、「介護する人 される人」というテーマでねらいとしてはどこら辺の方をねらっているのでしょうか。

**【事業係長】**

これから介護される立場になる、その心構えをしていきたいという意見がありました。

**【委員】**

テーマがこのタイトルだとすると誰が来たらいいのか見たら悩むような気がします。来るべき介護に備えて、などであったら分かる気もしますが。

**【会長】**

内容はいいと思います。しかし題名をスマートに書いたほうが良いのではないのでしょうか。たとえば老人介護のように。

**【委員】**

実際にはする人される人どちらにも支援は必要ということですよ。そういうニュアンスといいますか。

**【委員】**

近い将来みんなこういう状況になりそうだという漠然とした不安がある人くらいに絞ると分かりやすいと思います。

**【委員】**

実際に家族が介護を必要とした瞬間から戸惑っているんですよ。どうしたらよいのだろうか。どこにいったらいいんだろうとか。退院と言われたけれどもどうしようとか。介護者の支援はそこからやっていかないと、大変な状態になって難しいということもあるかなと思います。

**【公民館長】**

介護をする人を決して一人にはしないような、公的な助成がありますよとか、そういったものも含めて学んでいければよいのでしょうか。介護する人ももちろんなんですけれども、介護される立場になったときにこういうサービスがありますよとか。

**【委員】**

ガンなどでもそうですけれども、退院と言われた瞬間、在宅で頑張ろうと思った瞬間、本人も頑張ろうと思うし、家族もそう思う。けれどもなかなかうまくいかないというのが現実です。若い人ですと例えば放課後デイサービスなども、子どもも楽しく、親たちも少しリフレッシュ出来て、レスパイト（※小休止）できる。両方がいい状態であるということが本当は介護には重要なのですが、そういう発想にはまだなっていないので。そのあたりもどうするのか。する人、される人になるとそうなりますし。日本のショートステイはどちらがあれなのか少し分からない状態なので。

**【委員】**

この講座は市民から上がってきたテーマなのですね。だとすると資料の概要に相応しいテーマを決めるということでしょう。

**【委員】**

その時の心構え、などはどうでしょう？

【会長】

介護の心構え、などはどうでしょう？私も概要の内容はいいと思います。

【委員】

その時の心構え・介護する人される人、にすればよいのではないのでしょうか？

【会長】

いまのお話をふまえて若干の修正をお願いします。

【事業係長】

はい。

(2) 令和2年度自主公演単発講座について

【事業係長】

資料3をご覧ください。自主公演事業、今年度は栗コーダーカルテット&ビューティフルハミングバードクリスマスコンサートをやりましたが、来年度は「慶応義塾大学のライト・ミュージック・ソサイエティ」、ビッグバンドのサークルを呼びたいと考えています。学生のチャンピオンチームでして、幅広いジャンルの音楽を届けることができると思います。クリスマスが近いのでお子様向けにクリスマスの曲も交えて演奏していただければと思っています。富士見公民館でビッグバンドを毎年やるのですが、すぐにチケットが売り切れて、問い合わせがかなり来る、人気のある音楽のジャンルになりますので、今回提案させていただきました。

単発講座ですが、1番が「夏休み親子バス見学」、夏休みに毎年親子で社会科見学に行くものです。2番目は「おもしろ科学あそび」、小学生を対象に夏休みの自由研究として講座に来ていただければと思い開催しています。3番目は「夏休み映画会」、昔の16ミリフィルムで小学生、あるいは就学前のお子様たちに見ていただくようにアニメを上映して全公民館で上映会を行っています。4番「子ども読み聞かせ」。新しい提案です。子どもに焦点を当てて親子でなにかできるものはないかということで、子育てサークルさんをお願いして読み聞かせをお願いしたいと思っています。この読み聞かせはピアノを使って音楽に合わせて踊りながらというような読み聞かせです。5番目は「廻田公民館市民講座」。西武狭山丘陵パートナーズさんの協力を得まして、廻田公民館で市民講座を開催したいと思っています。6番目、「声を磨こう(コーラス)」。毎年人気で100名以上の応募がある講座でありますので、来年度も続けていければと思い提案しております。以上になります。ご審議よろしく願いいたします。

【会長】

いまご提案がありましたけれども、これについてなにかありますか？

【副会長】

自主公演事業の開催場所はどこですか？

【事業係長】

中央公民館です。

### 【副会長】

これとは別の富士見公民館のビッグバンドは続けているのですか？

### 【事業係長】

富士見公民館にはもっと年齢層の高い方たちのバンドがあり、すぐにチケットが売り切れる人気ジャンルというのでしょうか、その世代にかなり聞きたい方がいるという実感があります。

## 3. 報告事項

### (1) 令和元年度【12月～1月】公民館 主催事業及び講座報告

#### 【事業係長】

資料4をご覧ください。12月から1月に行った事業及び講座の報告になります。

「世界で起きている今を学ぶ」。明治大学の先生をお呼びしまして、第1回がポピュリズムの台頭とその問題、第2回目が発展途上国の児童労働の現実、第3回がプラスチックと海洋ゴミ問題について行いました。毎年行っている講座ですが、趣味講座が多い中で学習系講座としまして人気があります。定員24名に対し応募が34名。実際休んで欠席された方がいたので23名の受講者となっております。平均年齢は78.7歳です。

「数学を楽しむ」。今まで明法中学・高等学校の早乙女先生という方をお願いしておりましたが、講師をお辞めになりましたので新しく都立高校で副校長をなさっていた中村先生という方をお願いしました。こちらは30名の定員に対し27名の応募。欠席者がいましたので26名の受講者で、平均年齢は73.7歳となっております。

「子どもの発達障害を考える」。3回の講座です。当市の教育相談室の相談係長と現役の中学校の教師、通級指導学級としまして発達障害のお子様を通級してくる学級で指導されている先生、それから東京学芸大学で特別支援教育を研究されている村山先生をお招きして全部で3回行いました。年々発達障害のあるお子様が増えているということで、必ずクラスには2、3人いるということで受講者もいろいろ関心を持って、また質問も多く出ておりました。

「人生100年時代をどう健康に過ごすか」。これはヨガ、健康体操、音楽療法、音楽で歌いながらの脳トレです。2月7日から2月28日の全4回です。定員が30人のところ、61人の応募があり、先生に相談したところ5名プラスで35名の受講者となりました。平均年齢は72.9歳です。

ホール公演事業として中央公民館で1月25日に「笑顔あふれるまち土曜寄席 in 中央」を行いました。新しく真打になられた方が来まして、その方は若い層にも人気のある方で市外からも見に来る方がいました。来場者はチケットはもう少し売れたのですが311人となっております。

単発講座「声を磨こう（コーラス）」。専門の先生をお呼びして2回行いました。定員40名のところ107名の応募があり、先生と相談しまして55名受け入れました。平均年齢65.1歳。市内にはかなり多くのコーラスサークルがございますのでその方たちの横の情報の連絡で応募が多いのだと思います。

続きまして知的障害者青年学級かめのご学級です。

「お楽しみ会」を12月15日に行いました。津軽三味線の団体を当日お呼びして引いていただいたり、歌を歌ったり、楽しみました。



「カラオケ大会」は公民館の向かいのビッグエコーで行いました。普段大人しい方でもマイクを握ると人が変わったように歌を歌ったりする方もいますので、それぞれ個性が発揮できる場所となったと思います。

「活動ベスト3&スポットライト」は今年度行った活動の中でなにが一番楽しかったかというのを学級生に選んでいただいて、それを模造紙に貼って閉級式に発表する作品を作ったものです。この日は見学可能にしまして、来年度は学級生が4人増える予定です。ボランティアも2名、大学生も2人いまのところ活動に加わっていただける予定です。

資料4裏面ですが2月から3月の予定が載っております。まだ終わっていませんので、応募者の人数は出ておりませんがこれから始まるものになっております。

#### 【会長】

これについてなにかありますか？

#### 【委員】

市民講座「子どもの発達障害を考える」ですが、平均年齢が51.8歳と抜群に若いです。若い保護者の方々の参加が多かったのだと思われるのですが、その割には定員30名のところ応募が27名となっています。お伺いしたいのは曜日と時間です。誰が参加しやすかったのかを知りたいのと、教育相談室の方と中学校の通級の先生と学芸大学の先生と考えたときに誰を呼ぼうとした企画だったのでしょうか。中学の人の話を聞くのであれば中学生の保護者が来ようと思ったのか、子どもの発達障害を考えるというのであれば一番心配なのは幼稚園か小学校低学年の親が来そうな気がしますが、先ほどの講師の方だと割と年上の方を狙ってそもそも設定したのかなという気がしたので、やった時間とターゲットは誰だったのかお聞きしたいです。

#### 【事業係長】

講師の先生の都合もありますので毎週水曜日の午後2時から4時に行いました。中学の先生は臨床発達心理士なのですが、専門は幼児の発達障害です。募集するときの小テーマにご家庭や保育園でいろいろ困りごとがある方に来ていただいて施設であるとか家庭で講座を聞いて役立ててくださいということを載せてポスターで周知しました。今回集まった方は子どもに発達障害のある保護者もおりますし、施設の方も多かったです。

#### 【委員】

2時から4時という時間が、保育園に預けている方は仕事をしているから来られないし、幼稚園に行かせている人はお迎えだから出て来られないので、小学校の親は出て来られる時間だったかなと思います。

#### 【事業係長】

あとは託児をも受けております。

#### 【委員】

託児もあったのですね。

#### 【事業係長】

市民講座は基本的に託児があります。

**【委員】**

せっかく公民館という行政の施設なので、窓口の案内やパンフレットを渡したりはしましたか？

**【事業係長】**

はい、行いました。相談業務に係わっている一番最初の方は公認心理師で、窓口で学校に上がる前からと学校に上がってから切れ目のない相談を受けるので、パンフレットを会場のみなさんに配って、さらにほかの人にも紹介してくださいとおっしゃっていました。また講義の中でも、困ったらまず子ども相談室に相談に来るように、自分だけで悩まないようにとおっしゃっていました。

(2) 第56回東京都公民館研究大会

**【事業係長】**

2月1日に昭島市の市民会館、KOTORIホールで東京都公民館研究大会が開催され、約200人強の参加者がいました。参加者は講座の企画員でありますとか、公運審の委員、事務局が主になります。そこでまず基調講演としまして東京大学の名誉教授の佐藤一子先生が初めに講演いたしました。これは大ホールでみなさん聞きまして、公民館の成り立ちの説明からずっとお話があり、公民館は世代文化または多様性を尊重する施設であり、学習する機会を与える場ですので貴重な施設であるということをお話いただきました。今後とも公民館という施設を残していくべきであるというお話をいただきました。他の施設が生涯学習センターになっていくのに危機感を感じお話をしておりました。午後が第一から第四まで課題別に集会が行われました。私は第四課題別集会に行ったのですが、そちらはサークルの立ち上げを課題としてそれぞれグループに分かれて討議を行いました。そこには東京学芸大学の倉持先生がアドバイザーの役割でいらっしゃいました。私のグループは企画員と公運審の委員の方たちで事務方は私だけでしたが、6人の班になりました。そのなかの意見で、サークルを立ち上げるにはやはり行政からの支援が欲しいというものが数多くありました。また、その支援というのはヒト、モノ、カネなんですけれどもその支援がないとなかなかサークルを存続できないという意見がありました。サークルを継続していくには様々な課題がある、というお話になって結論は出ませんでした。倉持先生からもこれからの課題ですねというお話がありました。都公連には東村山市は入っていませんが、非加盟の市も何市か来ていたそうで、非加盟市でありながら歓迎していただきました。他市と意見交換をするよい機会となりました。来年の研究大会は町田市で行われるということです。以上になります。

**【会長】**

いまのことについてなにかありますか？

**【委員】**

来年町田市であるのですが、職員の方ではなくても申し込めば参加できますのでもしよろしければ来てください。参加者は職員の方と市民の方と、研究者が参加している会です。職員、市民、研究者が一堂になって議論するのですけれどもそれが伝統の貴重な機会です。自治体を超えて話す機会ですので、それ自体が貴重で、結論は出ないとありましたが、結論を出すというよりは話し合うということ自体に意味があって、

佐藤先生のレジュメでいうと7ページの持続可能な地域づくりと現代的課題に関する学習ということで、課題解決のための学習が求められているという話がありましたが、この学習の場のひとつでも研究大会があるというふうには言えるのではないかと思います。このレジュメ、非常にわかりやすく社会教育、公民館の歴史からいま求められていることまで非常にまとめているのでご活用いただければと思います。第三課題別集会につきましては西東京市で4年をかけて行われてきた防災学習の振り返りを小野さんという方が中心となった報告を聞きました。その年ごとに、場所ごとに、違う学習会をやって、ただ単発で終わるのではなくて、地域に次の核を作っていくような方法でやってらっしゃいました。なかにはカードを使って、自分事にするための体験を、その場にいるみんなでやってみるというようなことも含めて、割と参加型の学習を心掛けた第三分科会でした。各市から出ていた事例が、報告書が出るようでしたら聞いてみます。

**【会長】**

それではよろしいでしょうか？これはまた来年も2月ごろに行うのですか？

**【委員】**

大体この時期に行われますが、来年の日程までは聞いていません。

**(3) インフルエンザ等感染症に対する対策**

**【会長】**

新型コロナウイルス対策、こちらはどなたがお話をされますか？

**【館長補佐】**

私からご報告させていただきます。レジュメを作ったときにはまだそんなにコロナウイルスが流行っていなかったのですが、いま現実味の強い話になっています。一方で東村山の小学校でインフルエンザが非常に流行してまして本日から10学級程度が学級閉鎖になっていると思います。身近な問題としてはインフルエンザの学級閉鎖、社会的なところではコロナウイルスということで、公民館としては健康増進からの注意喚起のポスターを掲示しています。そのほか施設の管理会社に依頼しているのは手すりや机の上の清掃の回数を増やすことです。中央公民館ですとホールの事業があります。ホールの主催者のほうに出来ればアルコール消毒液を受付においてもらうよう依頼したり、公民館の入り口にも設置しています。いまアルコール消毒液が売っていないということもあります。また、ホールの影アナで咳き込んだりしている方がいらっしゃれば退室をお願いするよう伝えてもらっています。

**【会長】**

聞くところによると、コロナウイルス対策で手を洗ったりしたためにインフルエンザがあまり流行っていないというのは本当でしょうか。

**【教育部長】**

年内はインフルエンザが比較的ありましたが、年明けになってインフルエンザが少なく学級閉鎖もなかったのですが、先週くらいから学級閉鎖がはじめています。

**【会長】**

学校ではどのような話が出ますか？

**【委員】**

マスクの着用をお願いするという、手洗いうがいの励行をしています。

**【会長】**

子どもたちが不安になっている、落ち着かないということはありませんか？

**【委員】**

それはないです。

(4) その他

**【館長補佐】**

今日は各館より一言報告がございます。

**【廻田公民館長】**

廻田公民館の報告をいたします。本日の午前、10時から正午までの2時間、第一集会室におきまして第三回廻田公民館利用者懇談会を開催いたしました。参加者が6団体10名ありました。教育委員会より教育部次長、社会教育課より職員2名をお招きしまして、公民館からは私と嘱託職員全員、中央公民館より館長補佐を交えまして懇談会を開催いたしました。内容としましては前半と後半に分けて、前半では廻田公民館での文化祭開催につきまして教育部次長より昨年度と一昨年度の市民文化際におけるホールでの利用団体に開催のお礼と、来年度の市民文化際の廻田開催に向けての利用団体の積極的な参加のお願いがありました。後半では利用団体との懇談会ということで利用団体からの活動紹介がありました。開館以来27年間、会員の高齢化はあるものの日々練習を行っている団体や、会員の募集に苦勞している団体などがありました。私が見る限り人数の少ない団体でもよく頑張っていらっしゃるという印象を受けました。今後も続けていってほしいと思います。

**【富士見公民館長】**

富士見公民館の特色といたしましては中央公民館よりは小さいですが大き目のホールがあることです。年間を通し週1回程度のホールの利用があります。しかし冬、年末から3月ぐらいは少し利用が落ちます。先ほど自主公演事業でも話がありましたが、先月末にはおやじビッグバンドというのがありまして、毎年やっています、今年は8回目ということで、年齢的には高齢の方が多みたいですが第10回まではやりたいというお話は何っています。チケットも当日はもうないような状態だったということです。2月8日には社会教育課のほうでヤングライブフェスティバルがありまして、こちらはその名の通り中学生、高校生が対象でバンドをやっている学生たちが賑やかにやっており、そちらも覗きましたが熱気がありました。

そのような利用はありますが、全体の利用は下がってきているというのがありますので来月9日には富士見公民館も利用者懇談会を予定していますので、今まで利用している団体の方たちと今後のお話をさせていただきたいと思います。

**【秋津公民館長】**

昨年中央公民館から譲り受けましたお雛様を一階ロビーに飾っております。お内裏

様とお雛様など大きな人形が飾られているものですので、その前で写真を撮られている親子などが見受けられました。公民館で気持ちよく過ごしていただけるよう、季節感を大切にしたい雰囲気づくりに努めております。

利用の緩和により部屋の使い方がいろいろ出来るようになりました。一つのサークルがいろいろな部屋を使って活動できるようになりました。それに伴い、和室や保育室の使い方について管理が難しい面が出てきました。ですので折り合いをつけながら、工夫をしながら使うようにしております。団体登録されていたサークルが高齢化のため続けて解散されました。社交ダンスサークル、合唱やカラオケサークルなどです。非常に寂しく思っております。さきほど事業係長から講座の受講後のサークルの立ち上げの話もありましたけれど、秋津公民館では昨年度と今年度、市民講座で健康ダンス、ハートフルエクササイズと英会話、スマイルイングリッシュというものをやっていただいてそれが両方とも立ち上げに成功しています。この調子で、たとえばポスター作成のお手伝いですとか、新しいサークルメンバーの募集の声のかけ方や、何か困っていることはないか聞き取りを行い、出来ることは協力していくことを行っております。これから高齢化による解散が続くと思いますので新規の立ち上げにも力を入れていきたいと思っております。

#### 【萩山公民館長】

萩山公民館も利用者懇談会を3月16日の月曜日に予定しております。参加団体の方々の情報交換と、次年度の市民文化祭の情報などを話し合いたいと思っております。萩山公民館は図書館と併設の萩山文化センターという名称で都営住宅の一階にございます。萩山駅から徒歩二分です。利用者の傾向といたしましては月に三千人から四千人のご利用があり、60歳以上が主な利用者です。特徴としては毎月第二木曜日にどんぐりという地域の方による幼児親子向け広場事業というのが行政がきっかけでありまして、地域のボランティアのみなさんが幼児親子向けにいろいろな事業をしています。今年事業係が催しました「クラフトバンドでものづくり」というところからサークルが1団体誕生いたしました。先ほども話がありましたが10月12日には自主避難所を土曜日の午前中9時から翌日日曜日の朝の7時まで開設いたしました。萩山公民館は和室に女性の部屋、保育室に男性の部屋ということで、土足禁止の部屋を分けました。マックスで15人、男性6人、女性9人が避難されてきました。夕方テレビでよくやっている避難所だと思って親子で見学に来る、避難所とはどういうものかということで見学に来るような方々が5、6組いらっしやいました。この方々は夜中の1時から3時ごろ順次お帰りになりました。11月には市民文化祭がありましたので、社会教育課ともタッグを組みまして萩山公民館自主事業として、親子講座茹で饅頭とすいとん作りを催しました。申し込みは10組くらいありましたが3組程度キャンセルがありましたので6、7組で行いました。このときにお子様が飽きてしまうので図書館の読み聞かせサークルにもお願いし、茹でている間であるとか、すいとん作りの間に子供に絵本の読み聞かせを行っているということがありました。11月16日には土曜寄席がありまして萩山はいつも満員になります。意外と近場で迫力ある落語が聞けたというところでした。それからショーケースが3つ大きなものがありますが毎月絵手紙や唐の工芸や大人のぬりえといったようなものが展示されております。今月東村山研究会の道という題の研究発表がいま展示されています。これは余談ですがコロナウイルスの関係でいいますと水墨画の先生が中国人の方で毎年春節に中国へ帰られる、1月の終わりから2月の頭まで帰られるのですね。2週間お休みだったのですが、その会員の方から先生が中国から帰ってこれないということでもう一週延びたと

のことでした。先週の火曜日に中国の先生が来られて水墨画の交流会をしましたが、対応は私がいたしました。以上です。

#### 【会長】

地区館4館からいろいろな話がありました。ためになりました。気になるのは高齢化に向かって利用者が減っていくというのは非常に寂しい限りですけれども、みなさんから何かありますか？

#### 【委員】

まだ新参者ですが、こういう資料をいただいたり、お話を拝聴しますと皆さんの努力があって成り立っているのだなと感じます。地域の方にもう少し知っていればやりたかったのにとということもあるかと思しますので、これ以上のことは難しいかもしれませんが発信方法を気にしていただければと思います。

#### 【委員】

いまの地区館の報告でそれぞれ特徴があることや雰囲気伝わってきました。子どもが小さなころは秋津公民館に行ったりいろいろしていましたが、子どもが大きくなるとなかなか行くことがなくなったので、そのころを思い出しました。

#### 【委員】

発信はフェイスブックで時々たのしむらやまでも見ます。岡山市の公民館は公民館ごとに発信しているそうです。学生に教えていると公民館でこのような良いことをしているのであればもっと情報発信をしてくれれば使うのと言います。情報発信という視点は大切だと思います。各館に一言ずつあります。

廻田公民館でなんとか人数が少なくてもサークルが存続して行って欲しいと思っいるとおっしゃっていたので、ぜひ存続してほしいという何か働きかけをしていただければと思いました。

富士見公民館についてです。ヤングライブフェスタについてですが、ヤングライブフェスタを覗いてくださったので、公民館を使ってもらえる何かがあるといいのかなと思いました。私が以前国分寺に住んでいた時のホールはこの時期、年末から3月までは謝恩会とお別れ会でホールが取り合いだったのですが、ホールがこの時期に需要がないということに逆に驚いて、料金が安いのかなとちょっと思ったのですが、もし学生たち、中高生たちが対象のもので、国分寺にもバンドを練習するところがあって、そこに公民館が、そこは社会教育課ではなくて公民館の部屋だったので通っている子が公民館が何かを学んで、公運審の委員になっていくというずっと長い経過もあったりしたので、そこに来ている中高生になんとか公民館を使おうよと働きかけられないかなという希望をなんとなく思いました。

秋津公民館についてです。大きなひな人形が珍しい、確かに今の家庭事情を考えるとここでも和室がないという話を散々しましたから、上の二人しか置かなかつたりということも多いので、日本古来あったものなどを見る機会としても重要なのだと思いました。私たちに関係することだと思うのですが、利用緩和で部屋を使えるようになったけれど、管理しづらい面が出てきたので折り合いをつけながらやっているとお話しされていたので、もしどんな話があるのかということをお聞きするとよいと思います。規制緩和したことによって何が起きているかということをお伺いしたいと思いました。

萩山公民館についてです。親子が見学に来た話がとても印象的でした。テレビです

っと、皆さん働いているのでご覧になっていないと思いますが、千葉市の公民館が避難所としても、物資の受け渡しとしても、給水所としてもずっと公民館のことが出ていました。あれを見ていると普通の人には公民館は避難所になったり拠点になったりするものだと思います。SNSで避難所を見に行ったらほうがいいと思うという動きが若干あったので、それかなと思って、見に来た人について公民館のことも見に来てもらえるとういと若干思いましたがそれどころではないかもしれません。

**【会長】**

利用の緩和をしたためにということが私も気になりました。具体的にはどういうことですか？

**【秋津公民館長】**

例えば和室で最初はお茶とか着付けなどをやっていたのですが、ダンスなどに開放したら畳が切れてしまったりとか、子どもたちのお楽しみ会で走り回ったりとか。和室はお茶で使う人にとってはなにもないほうがいいけれども、ほかのところではホワイトボードを使ったり、何々は退かしてほしいとか、貸さないでほしいとか、音楽と習字が隣でやることになってうるさいとかそういったことです。

**【会長】**

今の話はひとつひとつが課題ですね。利用緩和をしたためにある程度使い勝手が悪くなったために問題が出てくる。なにも秋津公民館に限ったことではないと思います。これはまた考えていかないといけないと思います。次回は5月11日月曜日、18時より中央公民館にて開催いたします。本日は、ありがとうございました。